

日本語と日本の文化

ゴールデンウィークに家の整理をしているなかで「皆さんにも参考にもなるかも」との記事を見つけました。日本ペンクラブ会報 Vol.428 に載っていた阿刀田高氏（第 15 代会長）の講演です。私的に面白くヒントになった部分を掲載させていただきました。このページに載せるために一部短くまた調整している部分もあります。

日本にも世界一の資源がある

日本にも世界一の資源がある。それは識字率です。正確な統計は持っていませんが、世界一であることは間違いない。日本人は 99%読み書きができる。識字率が整っているという事は、どれほどすごい国力であるか。私たちはすごい力を持っているわけです。日本の世界一の資源です。



例えば、日本には五・七・五という、たった 17 文字で自然と人間の心が会話する俳句があります。松尾芭蕉という深い境地まで詠み込んだ人もいれば、日常の生活を詠んで楽しむ人々もいます。そうした文学を私たちは育ててきたのです。

簡素なものを尊ぶ日本文化

お茶もそうです。たった一杯のお茶でも。簡素の中にも伝統的な美と客をもてなす心があります。このように日本には簡素な物を大切にする文化がある。

考えてみますと、日本人は本当にスゴイ。俳句は、鉛筆一本と紙があれば十分。万葉集・・・千年以上前の私たちの先祖が詠んだ歌が、今、小学生でも分かるなんて、こんな文化を持っている国は世界中、どこを見渡してもありません。フランスやイタリアでも、千年前は今の言語を持っていないのですから分かるはずもありません。

言葉が豊かでなかったら、考えが豊かになるはずがありません。言葉が正確でなかったら、考えが正確であるはずがありません。

言葉のしゃれは日本文化の発露

例えば同音異義語。「貴社の記者は汽車で帰社した」——日本人ならほとんど無理なく聞き分けることができます。それが日本語の特徴です。「竹やぶ焼けた」——ひっくり返すと同じ文言になる。「ありが十四、ありがとう」。江戸時代から続いている言葉遊びの一つ。「一枚でもせんべえとはこれいかに?」「一個でもまんじゅうと言うが如し」

同じ事を並べた言葉遊び

「むかしむかしのずっと前、男の武士の侍が、馬から落ちて落馬して、女の婦人に笑われて、赤くなって赤面し、家に帰って帰宅して、小さい刀の短刀で、腹を切って切腹し、とうとう死んで亡くなった」・・・「返事を返す」「伝言を伝える」などもよく使われる。

日本文学は世界で一級

残念ながら、日本の作品は日本語で書かれていて、海外では知られていない。

村上春樹さんの評価が高いのは、ある意味、英語で多く翻訳されているからで、他の作品はあまり翻訳されていないから誰も知らない。

